

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第3550101号
(P3550101)

(45) 発行日 平成16年8月4日(2004.8.4)

(24) 登録日 平成16年4月30日(2004.4.30)

(51) Int.Cl.⁷
E O 4 D 13/072

F I
E O 4 D 13/072 5 O 2 C

請求項の数 1 (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2001-78674 (P2001-78674)	(73) 特許権者	593178409
(22) 出願日	平成13年3月19日 (2001.3.19)		株式会社オーティス
(65) 公開番号	特開2002-276104 (P2002-276104A)		大阪府大阪市天王寺区鯛差町10番29号
(43) 公開日	平成14年9月25日 (2002.9.25)	(74) 代理人	100087664
審査請求日	平成13年3月19日 (2001.3.19)		弁理士 中井 宏行
		(72) 発明者	上田 英治
			大阪府東大阪市横枕東20番地 株式会社
			オーティス内
		(72) 発明者	栗岡 英一郎
			大阪府東大阪市横枕東20番地 株式会社
			オーティス内
		審査官	南澤 弘明
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 雨樋支持具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

基端に取付杆を設けた雨樋を支持する樋支持具本体の少なくとも前方には、上記雨樋の前耳を抱持する抱持爪片を備えた雨樋支持具において、
上記抱持爪片は、係合部が突出形成されており、上記雨樋の前耳の内面側に折り曲げることによって、上記係合部を上記雨樋の前耳に形成された凹所に係止させて、上記雨樋の前耳を抱持させる構造としている雨樋支持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、軒先等に取り付ける雨樋支持具に関し、詳しくは、基端に取り付杆を設けた雨樋を支持する樋支持具本体の少なくとも前方には、上記雨樋の前耳を抱持する抱持爪片が形成された雨樋支持具に関する。

【0002】

【従来の技術】

図4は、従来の雨樋支持具を示す斜視図である。

【0003】

この雨樋支持具100は、雨樋Tを支持する樋支持具本体101と、これを軒先等に固定する取付杆102とから成る。

【0004】

樋支持具本体１０１は、雨樋Ｔの形状に応じて適宜形成されるものであるが、この樋支持具本体１０１の少なくとも前方には、雨樋Ｔの前耳Ｔ１を抱持する帯板状の抱持爪片１０３が設けられている。

【０００５】

この抱持爪片１０３は、樋支持具本体１０１に雨樋Ｔを支持した後、図中矢印で示すように、雨樋Ｔの前耳Ｔ１の内面側に折り曲げることによって、その前耳Ｔ１を抱持して、雨樋Ｔの外れを防止するものである。

【０００６】

なお、取付杆１０２は、樋支持具本体１０１を軒先等に固定できるものであれば良く、その構造や形状には限定されない。

10

【０００７】

【発明が解決しようとする課題】

図５は、図４の縦断状態を示す部分概略図である。

【０００８】

上記の通り、雨樋Ｔには種々のものが存在し、その中には、雨樋Ｔの前耳Ｔ１の内面に、凹所Ｔ２が形成されたものがある。

【０００９】

このような雨樋Ｔの前耳Ｔ１に、抱持爪片１０３を折り曲げて抱持させた場合、この抱持爪片１０３によって通常時には雨樋Ｔの抱持を維持できる。

【００１０】

20

しかし、強風に晒される状況下の雨樋Ｔには様々な荷重がかかるため、例えば、雨樋Ｔの各荷重によって抱持爪片１０３の抱持が弛んでしまい、雨樋Ｔの外れを十分に防止できない問題があった。

【００１１】

本発明は、かかる課題を解決することを目的とするもので、強風時においても抱持爪片から雨樋が外れるおそれがなく、雨樋の外れを確実に防止できる雨樋支持具を提供する。

【００１２】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、請求項１に係る雨樋支持具は、基端に取付杆を設けた雨樋を支持する樋支持具本体の少なくとも前方には、上記雨樋の前耳を抱持する抱持爪片を備えた雨樋支持具において、上記抱持爪片は、係合部が突出形成されており、上記雨樋の前耳の内面側に折り曲げることによって、上記係合部を上記雨樋の前耳に形成された凹所に係止させて、上記雨樋の前耳を抱持させる構造としている雨樋支持具。

30

【００１３】

請求項１では、抱持爪片に、雨樋の前耳内面に形成された凹所に係止する係合部が突出形成されているため、抱持爪片を上記雨樋の前耳の内面側に折り曲げることによって、上記係合部を上記雨樋の前耳に形成された凹所に係止させて、上記雨樋の前耳を抱持させることができる。

【００１４】

そのため、強風時においても抱持爪片の係合部が雨樋Ｔの凹所から外れることがなく、雨樋の外れを確実に防止できる。

40

【００１５】

【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る雨樋支持具を図面に基づき説明する。

【００１６】

図１は、本発明に係る雨樋支持具の一実施例を示す斜視図、図２は、図１の縦断状態を示す部分概略図である。

【００１７】

この雨樋支持具Ａは、少なくとも前耳Ｔ１内面には、凹所Ｔ２が形成された雨樋Ｔを取付け可能であって、雨樋Ｔを支持する樋支持具本体１と、これを軒先等に固定する取付杆２

50

とから成る。

【0018】

樋支持具本体1は、雨樋Tの形状に応じて適宜形成されるものであるが、この樋支持具本体1の少なくとも前方には、雨樋Tの前耳T1を抱持する帯板状の抱持爪片3が設けられている。

【0019】

この抱持爪片3には、雨樋Tの前耳T1内面に形成された凹所T2に係止する係合部31が突出形成されており、本実施例では、帯板状に形成された抱持爪片3の適所を内方に折り返して係合部31を形成している。

【0020】

このような係合部31が突出形成された抱持爪片3によれば、樋支持具本体1に雨樋Tを支持した後、図中矢印で示すように、この抱持爪片3を雨樋Tの前耳T1の内面側に折り曲げることによって、その前耳T1を抱持すると共に、抱持爪片3に形成した係合部31を、雨樋Tの前耳T1内面に形成された凹所T2に係止させることができる。

【0021】

そのため、風雨等によって抱持爪片3が多少弛んでも、その係合部31が雨樋Tの凹所T2から外れることがなく、雨樋Tの外れを確実に防止できる。

【0022】

なお、取付杆2は、樋支持具本体1を軒先等に固定できるものであれば良く、樋支持具本体1と同様、その構造や形状には限定されない。

【0023】

図3(a)～(c)は、本発明に係る係合部が形成された抱持爪片の他の実施例を示す斜視図である。

【0024】

上記の通り、雨樋Tには種々のものが存在し、その前耳T1の内面に形成された凹所T2にも様々なものがある。

【0025】

図3は、雨樋Tのこれらの凹所T2に係合される抱持爪片3の様々なものを例示したものであり、図3(a)は、抱持爪片3の適所に、内側に向けて単又は複数の片部を切り起して突出形成した係合部31を示している。

【0026】

図3(b)は、抱持爪片3の適所に、内側に向けて膨出させて突出形成した係合部31を示している。

【0027】

図3(c)は、抱持爪片3の上端を内側に折り曲げて突出形成された係合部31を示したものであり、これらの何れの係合部31を採用するかは、取り付けられる雨樋Aの種類によって適宜採用される。

【0028】

なお、本実施例の雨樋支持具Aでは、樋支持具本体1の前方にのみ帯板状の抱持爪片3が設けられたものを例示しているが、本発明に係る係合部31が突出形成された抱持爪片3は、図1で示した雨樋支持具Aの後耳T3を掛止する後耳掛止部材11に設けることも可能である。

【0029】

【発明の効果】

本発明によれば、次のような効果がある。

本発明に係る雨樋支持具によれば、抱持爪片に、雨樋の前耳内面に形成された凹所に係止する係合部が突出形成されているため、抱持爪片を上記雨樋の前耳の内面側に折り曲げることによって、上記係合部を上記雨樋の前耳に形成された凹所に係止させて、上記雨樋の前耳を抱持させることができる。

そのため、強風時においても抱持爪片の係合部が雨樋Tの凹所から外れることがなく、雨

10

20

30

40

50

樋の外れを確実に防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明に係る雨樋支持具の一実施例を示す斜視図

【図 2】 図 1 の縦断状態を示す部分概略図

【図 3】 (a) ~ (c) は、本発明に係る係合部が形成された抱持爪片の他の実施例を示す斜視図

【図 4】 従来の雨樋支持具を示す斜視図

【図 5】 図 4 の縦断状態を示す部分概略図

【符号の説明】

A 雨樋支持具

T 雨樋

T 1 前耳

T 2 凹所

1 樋支持具本体

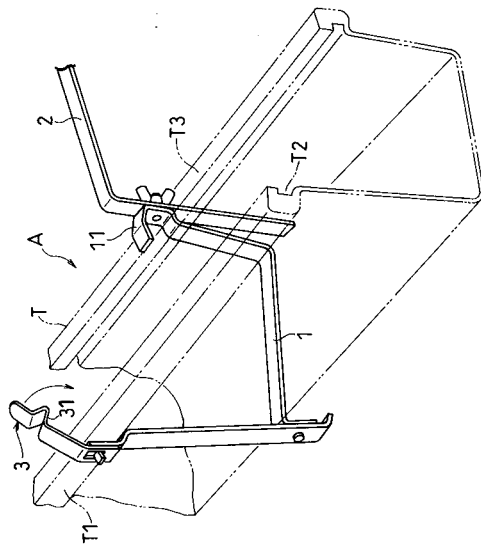
2 取付杆

3 抱持爪片

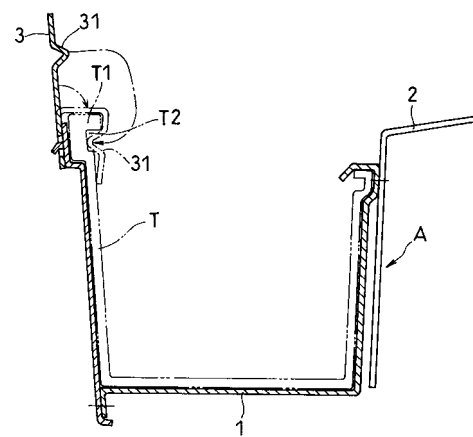
3 1 係合部

10

【図 1】

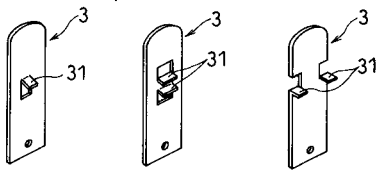


【図 2】

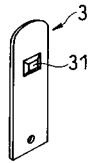


【図 3】

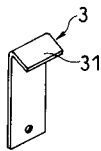
(a)



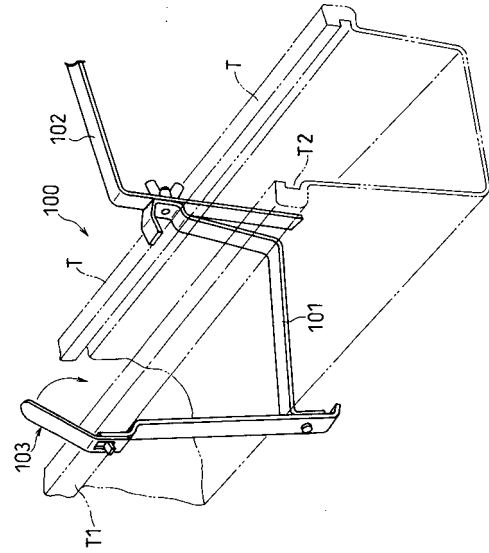
(b)



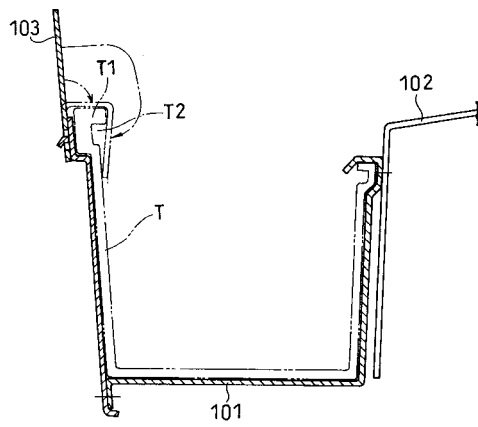
(c)



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭51-052322 (JP, U)
特許第006093 (JP, C2)
実開昭54-035431 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)
E04D 13/072